

平成 30 年度第 3 回大分市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 30 年 11 月 26 日 (月) 13 : 30 ~ 14 : 35

2. 場 所 大分市役所議会棟第 5 委員会室

3. 出席者

○総合教育会議構成員	大分市長	佐藤 樹一郎
	大分市教育委員会教育長	三浦 享二
	大分市教育委員会委員	古城 和敬
	大分市教育委員会委員	大久保 眞理子
	大分市教育委員会委員	上杉 美穂子
	大分市教育委員会委員	生野 誉士
	大分市教育委員会委員	古城 一

○事務局

企画部長	江藤 郁	教育部長	増田 真由美
企画部審議監	縄田 睦子	教育部教育監	佐藤 雅昭
企画部審議監	伊藤 英樹	教育部次長兼学校教育課長	佐藤 浩介
企画部審議監	永松 薫	教育部次長兼学校施設課長	池田 武文
企画課長	小野 晃正	教育総務課長	清水 昭男
国際化推進室長	林 聡一郎	社会教育課長	永田 佳也
企画課参事補	山口 大介	教育センター所長	御手洗 宏昭
企画課主任	園田 哲也	教育総務課参事	岡本 隆憲
		学校教育課参事	野田 秀一
		英語教育推進室長	坂本 浩二
		教育総務課参事補	黒木 眞由美
		教育総務課主査	谷矢 啓良
		教育総務課指導主事	三嶋 みどり

4. 次第
- (1) 開会
 - (2) 議事
 - 1. 平成30年度大分市教育委員会行政視察について
 - 2. ICTを活用した教育について
 - 3. 英語教育について
 - (3) 閉会

1. 開会 事務局	<p>皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただいまから、平成30年度第3回大分市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>会議の進行を務めさせていただきます、企画部長の江藤でございます。どうぞよろしく願います。</p> <p>それでは初めに、本会議の議長であります、佐藤市長からご挨拶申し上げます。</p>
市長	<p>こんにちは。佐藤でございます。第3回の総合教育会議にご出席いただきましてありがとうございます。教育行政については本市の重要課題でございます。市内13地域で地域まちづくりビジョンというものが作成され、その市民報告会を現在、開催しており、地域の方にご出席いただいております。その中でも、教育の関係のご意見が多く出ております。例えば、通学路などの道の安全の問題や、公民館を活用した社会教育など、様々なご提言をいただいております、一つ一つしっかり取り組んでいく必要があると考えております。</p> <p>これまで安全対策ということで通学路の問題や学校現場での防犯などについて議論してきましたが、学校への防犯カメラの設置については予算化して取り組むこととしております。また、緊急時の防犯システムについては、現地視察を実施しましたが、公用携帯を使い、情報共有をしっかりとできるシステムを作っていたのではないかと考えております。</p> <p>また、先日、新任の大分市の小中学校教員の皆様と意見交換をさせていただきました。大体70人弱でしたが、二学期に入り、一学期の経験を踏まえて、いろいろな問題意識を持って、しっかり取り組んでいこうという心強い先生方ばかりでした。これから、そういう先生方がしっかり教育現場で活躍できるような環境を整えていく事も大事なのかなと考えております。</p> <p>本日の議題は教育委員会において実施していただきました行政視察の状況、ICT教育、英語教育についてとなっておりますので、どうぞよろ</p>

事務局	<p>しくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは早速ですが議事に入らせていただきます。議事の進行につきましては、本会議の議長であります佐藤市長をお願いいたします。</p>
<p>2. 議事</p> <p>市長</p>	<p>それでは早速ですが、議事に入らせていただきますのでよろしくお願いいたします。一点目の、『平成 30 年度大分市教育委員会行政視察について』でございますが、教育委員会で実施しました行政視察を通じて、皆様が感じた事などについて、ご意見をいただければと考えております。</p> <p>まずはじめに、事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>教育部長の増田でございます。</p> <p>行政視察の概要を説明させていただきます。恐れ入りますが、座って説明させていただきます。お手元に A 3 横の資料を配付しております。ご確認下さい。</p> <p>今年度の視察は、I C T を活用した授業やプログラミング教育、市立図書館の運営等において、先進的な取組を進めています岐阜市を訪問いたしました。</p> <p>視察内容の 1 点目、I C T を活用した授業やプログラミング教育についてでございますが、岐阜市では、積極的な I C T 環境の整備を進めるとともに、平成 3 2 年度から小学校で全面実施となるプログラミング教育を平成 2 9 年度から実施しており、タブレット端末を活用した体育の授業、電子黒板を活用した理科の授業、P e p p e r を活用したプログラミングの授業を視察いたしました。</p> <p>なお、大分市における I C T を活用した教育につきましては、後程、議事（2）にて担当課より説明をいたします。</p> <p>2 点目の主体的・協働的な学びの創造についてでございますが、岐阜市では主体的・協働的な学びを推進する環境としまして、各小中学校に可動式のいすや机、ホワイトボード等を備えたアクティブ・ラーニングスペース「アゴラ」を整備しており、「アゴラ」での国語の授業を視察いたしました。</p> <p>3 点目、市民図書館の運営では、平成 2 7 年に複合施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」内に開館いたしました岐阜市立中央図書館を視察し、書棚づくりの工夫や学校支援の取組等、居心地のいい「滞在型図書館」をめざす図書館運営について説明を受けました。</p>

<p>市長</p>	<p>4点目は、学校における働き方改革を推進するための「岐阜市教職員サポートプラン」に基づいた取組について説明を受けました。</p> <p>以上、岐阜市の様々な取組を参考としながら、今後、本市の教育行政を推進していきたいと考えております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。委員の皆様が行かれた視察ですので、それぞれ感じられた点につきまして、発言をいただきたいと思えます。</p> <p>古城一委員から順番にお願いします。</p>
<p>古城（一）委員</p>	<p>ただ今、部長さんからご説明がありましたとおり、10月に行ってまいりました。どれも中々感心したところがございます。特に2番のアクティブ・ラーニングスペース「アゴラ」を拝見させていただいたんですが、生徒さんが活発に意見を出しており、ホワイトボードにいろいろなアイデアが書かれておまして、是非大分でもと思いました。空き教室の関係で厳しいのではなかろうかという話も聞いておりますが、面白いところを見られて大変印象に残った次第でございます。</p> <p>図書館につきましては、百聞は一見に如かずというぐらい、感動して帰ったところがございます。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>図書館はいろいろな所が様々な工夫をしていますね。</p> <p>ありがとうございました。それでは、上杉委員お願いします。</p>
<p>上杉委員</p>	<p>私は図書館がすごく衝撃的でした。子どもが小学生、中学生で、上の子は特に受験生なので、受験勉強に毎週末ホルトホールに行っていますが、学習室は一杯で、整理券の配分も回ってこないため、ロビーに溢れかえっている状況です。そんな状況から、もうちょっと学習室もいろいろなスペースがあって、一人ひとりと机という形ではなく喋ってもいい空間など、移動しながら勉強できるというものが出来たらいいなと思いました。</p> <p>こちらの図書館は、滞在型という事でいろいろなところに、大人もドキドキ・ワクワクするような仕掛けがたくさんあり、図書館という括りに収まり切らないような場所でした。</p> <p>1番のプログラミング教育も、小学生から塾でプログラミングを習っているというお子さんもいるような時代ですので、それを学校でどのような形で実施していくかといった、先生方の創意工夫や研修が重要と感じました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。別府市は美術館と図書館を一緒にしたものを</p>

	<p>作ようになっていましたかね。</p> <p>それからホルトホールの学習室ですが、鶴崎などいろいろなところより、ホルトホールにあって、鶴崎などには無いので作ってくださいといった議論が出てきます。やはり勉強する場所は大変重要なんですよね。ホルトホールも含め、どういうふうに改善すべきか考えていく必要がありますね。</p>
市長	<p>それでは古城委員お願いします。</p>
古城（和）委員	<p>ICTについてですが、岐阜市は5年先をいく教育実践といった形で銘打って、教育について非常に積極的にいろいろな施策を反映しているなと思います。ICTに関しましても、子どもがICTに非常に慣れており、使い方も、自分たちのものになっているというところが非常に印象的でした。そのICTでPepperが、プログラミング教育の推進ということで、一つの教室に7台あり、グループで一つのPepperにプログラミングを行うという形で展開しておりました。ただ、私たちが参加した時は、うまくPepperが作動しなくて、そのプログラミング教育を子ども達が達成できたかということまでは分からなかったのですが、子ども達がそういった状況に慣れて、そういった形で学習する体制というものができているということが印象に残りました。</p> <p>アゴラにつきましても、中学生がICTを使うのと同じような形で、ホワイトボードを使っていたのですが、やり方としてはまったく変わらない感じでした。そういった意味でICTとアゴラが一体として子ども達のものになっているといった印象を持ちました。</p> <p>図書館に関しましては、ホルトホールとコンパルホールには図書館がありますが、これらの図書館のあり方について、非常に参考になるなと思いました。滞在型の図書館といったような形で展開しておりますので、これは是非とも大分市でも取り組んでいただければと感じましたし、大分市の場合は立地がものすごくいい所にありますので、効果も得られるのではないかと思います。</p> <p>それから、教員の働き方改革に関するものですが、夏休みに16日間まとめて休暇を取るという事で、県と市が連携・協力して、その間は先生方の研修をしないといったような形で協議が出来ているなど、そういった事から、出来たんだろうなと思いました。こういった面でも、大分市を中心として、大分県も巻き込んで、働き方改革を展開していく必要があるなと感じました。以上です。</p>

市長	<p>ありがとうございました。大久保委員お願いします。</p>
大久保委員	<p>ICT教育についてですが、体育の授業を見学しました。走り高跳びの授業だったんですが、タブレット端末を使って、皆が一人一人跳ぶのを撮影して、皆が跳び終わると集まって、一人一人録画を見て、分析をしていました。分析・検証して、こうしたらいいよと言って皆で話し合っ、また跳ぶんですが、そうしたら上手くいってました。先生が言葉で教えるだけではなく、自分たちで見て、悪いところを検証して、良いところは自分たちでやってという形で、今までの授業とは全然違った授業になっていくのではないかなと思いました。さらに、上達も早いのではないかなとも思いました。</p> <p>アゴラの授業についてですが、グループ学習する時は常に同じメンバーというのは、すごく良い取り組みではないかなと思いました。コミュニケーションが取りやすく、自分の意見を出しやすいと思いますので、大分でもやってみてもいいのではないかなと思いました。</p> <p>図書館についてですが、館長さんは一般公募から来られた館長さんでした。建物も素晴らしかったですけれども、図書館のイメージが、今まで自分が持っているイメージと違ってました。図書館というと、シーンとしていて、声を出してはいけない、そういうイメージだったんですけど、すごく開かれていて、確かにこんな感じだったら人が集まるコミュニティの場になるなと感じました。本を借りて読むだけではなく、いろいろな取り組みをしており、これは本当に素晴らしいなと思いました。館長さんのお話も素晴らしくて、是非、お話を皆様にも聞いていただけたらなと思いました。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございました。図書館については、先程、古城委員からもお話がありましたが、場所は駅前ですか。</p>
事務局	<p>駅からだいぶ距離があります。 中心市街地の一番外れぐらいになります。</p>
市長	<p>どうやって図書館には行っているんですか。</p>
事務局	<p>自動車やバスで訪れているようです。また、図書館の前には新しい岐阜市役所が建築中であり、中心市街地活性化の計画域の比較的外れの方ということで説明を受けました。</p>

市長	歩いて行くにはちょっと遠いんですか。
事務局	行けない距離ではないかもしれませんが、若干遠いかもしれません。
市長	場所的にいうと、大分市のホルトホールの方が立地的にはメリットがあるんでしょうから、上手く岐阜市の図書館のノウハウを組み合わせて、もっと良いものが出来るかもしれないですね。
古城（和）委員	街おこしということも図書館が担っていると思います。
市長	ありがとうございました。それでは生野委員お願いいたします。
生野委員	<p>私も非常に先進的な教育都市だなという風に感じました。特にICT教育と2番目のアゴラに非常に感銘を受けました。中々難しいなと思ったのは、使い方であるとか、どういう形でこれを準備していくかというのが、非常に課題ではないかと思いました。</p> <p>ICTについては、先程、大久保委員さんからもお話しがあったんですけども、体育の授業で走り高跳びを跳ぶ時に、タブレットで撮影をしながら、踏みきりの位置をここにしたらどうなるかという形で、そこに印をつけて踏みきりをするんですけども、そうしたら上手くいかない。でも、撮影した動画を見ることで、一番高い地点がここになるから、もう少し後ろに踏みきりの位置をしたらどうかとか、前にしたらどうかといったことを、子ども達皆で話し合うなど、非常に有効に活用されていました。正直、最初にICT教育を見に行くという段階では、タブレットを各生徒に配っているという話を聞いた時、物を検索したりするなど、そういう事に使うのかなと思っていました。こういう形での使い方があるという事で、非常に有効的・効果的に活用していましたが、活用の仕方をしっかりと提供する側が考えていかなければならないなと思いました。</p> <p>アゴラについても、自由度の高い授業を行っていて、子どもたちが活発に発言をし、それを最終的にまとめて、発表させる。その中で通常の授業にはないような、独創的な意見が出たり、非常に分析的な思考といったものがあり、素晴らしいなと思いました。自由度が高いということは、当然それを管理する先生方も非常に大変なんじゃないかなと思いました。非常に綿密な準備をして、場合によっては、話を活発にできない子どもがいた場合には、それをどう救っていくかという事も考えながら取り組まなければいけないなと感じました。いいところをいっぱい見せてもらいましたが、その裏にはいろいろな努力があって、我々、大分市がこういう形に取</p>

<p>市長</p>	<p>り組んでいくには、非常に入念な準備であるとか、努力が必要だと思いません。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは三浦教育長お願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>ただ今、皆さん方がおっしゃった通りでありますけれども、岐阜市は人口 41 万、小学校 46 校、中学校 22 校、高等学校 1 校という規模で、岐阜市の教育長は全国中核市の会長をしており、ICTの先進県であるという事と、働き方改革にいち早く取り組んでいるという事から、ここを視察することに決定したところであります。個々の内容については皆さん方のおっしゃった通りで、私も同様の考えでありますけれども、特にICTについては、教育大綱、それから大分市教育ビジョンの中にもICTを活用した教育の充実を掲げておりますので、今後取り組んでいかなければならない課題であります。市が考えている構想については、後程、教育センターより説明をさせていただきます。</p> <p>それからアクティブ・ラーニングスペース「アゴラ」というのは、私も非常に参考になりました。主体的で対話的で深い学びというものを実現するために全校に設置をしている。先程、古城委員さんからも出ましたけれども、余裕教室を使ってということで、通常教室の1.5倍のスペースといった、自由に学習できるスペースとなります。子ども達のプレゼン能力も高まるでしょうし、子どものアンケート調査を見ても、全ての教科をこの教室で勉強したいという声もありましたので、子ども達からも肯定的に受け入れられているという事で、これは大分市にとっても大いに参考にすべきだと感じました。</p> <p>碩田学園については、各階に多目的スペースを設けてありますので、すぐにも実現可能だということを感じました。</p> <p>他の学校については、もちろんこの教室に行くまでもなく、普通教室で、こういう授業が展開されたならばいいわけですがけれども、今、生野委員が言ったように、これには十分な事前の準備が必要だということも感じたところです。</p> <p>教職員の働き方改革についても、同じ教育委員会同士の情報も交換することが出来ました。特に部活動指導員がまず確保できないというような、同様の課題もありまして、今後も相互に情報交換をしながら進めていきたいと思いました。</p> <p>市民図書館については、いろいろ仕掛けがやっぱりあると感じました。特に司書が、私はポイントだなと感じました。司書をうまく活用して、図</p>

市長	<p>書館の魅力をアピールしていく必要があります。来る人を待つだけの図書館という時代ではないと強く感じました。以上です。</p> <p>ホルトホールにも司書さんが居るんですよね。そこら辺は見習わないといけないですよね。他に何かありますか。</p>
市長	<p>それでは次に2番目の「ICTを活用した教育」という事で、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>大分市教育センター所長の御手洗でございます。</p> <p>私からは大分市の学校におけるICT機器等の整備についてと、プログラミング教育についての説明をいたします。恐れ入りますが座って説明させていただきます。</p> <p>まず、本市の学校におけるICT機器等の整備についてでございますが、先程岐阜市の報告の中にもICTの環境整備についてございましたが、本市におきましても、来年度の教育用コンピューター等の更新に伴いICT環境の整備を行ってまいります。</p> <p>まず、国が示している指標ですが、6項目ございます。プロジェクター大型モニターを常設、実物投影機を常設、学習者用PCを3クラスに1クラス分配備、指導者用PCを授業担当者に各1台配備、超高速インターネット無線LANを100%、充電保管庫を設置となっております。</p> <p>次に現状と平成31年度9月以降の更新状況について説明いたします。</p> <p>プロジェクター、スライド式マグネットスクリーンにつきましては、各学校に2、3台で、31年9月以降は各学級に1台、理科室を除く特別教室に1～3台、配備することとしております。それから実物投影機ですけれども、各学校に1～2台ありますので、それを9月以降は3学級ごとに1台配備する予定で、これは書画カメラという移動しやすいものになっております。それから学習者用PCについては、現在パソコン教室に40台置き、タブレット端末を3学級ごとに4台配備しておりますけれども、これを3学級ごとに1セット20台設置いたします。それから指導者用パソコンにつきましては各学校に2台、デスクトップ型のパソコン及び、学校規模に応じて3～18台程度の移動用のパソコンを配備しておりますけれども、9月以降は授業担当者に1台タブレット型端末を準備します。それから超高速インターネット無線LAN環境につきましては、現在無線LANの環境整備を行っております。無線LANは、同じ建物内のネット管理をしておりますので、9月以降になりますとLTE回線を使うことになりますので、無線WAN環境整備となり、いろいろな所で使えるという環境にな</p>

ります。それにつきましては、機器台数の制限及び接続不良を解消できる事になります。

また、教職員の研修等で指導主事がICT機器を活用しながら指導助言できるよう教育委員会事務局職員にも配備します。

このタブレット端末につきましては、すぐに使えるようそれぞれの教室、各フロアに充電保管庫を準備し、すぐに取り出すことも出来るように考えております。

次にICT機器等の整備による効果と今後の取り組みですけれども、現状を見てみますと、パソコン教室に行って、移動用ノートパソコンやタブレット型端末、スクリーン、プロジェクター等を各教室に運んで利用するため、利用する機会が限られる状況でございます。今後、この更新に伴いまして変わることは、授業担当者に端末が1台渡されることにより、各教室にプロジェクター、スクリーンがセットされ、「拡大して見せる」「画像、動画コンテンツを見せる」等が、毎時間可能になります。また、学習者用端末20台を各学級1日に2時間程度利用でき、タブレット型端末の利用できる場所や機会の大幅な増加が見込まれるということになります。

目指す教員の姿ですけれども、指導者用タブレットを一人1台配備することにより、教員のICT活用指導力の向上を図るとともに、ICTを効果的に活用した授業実践を行うことにより、わかる授業を実現します。また、児童生徒の情報活用能力を向上させることを考えております。

そのため教育委員会といたしましては、まず大分市学校教育指導方針の重点課題と達成指標への位置付けを行い、指導主事等によるICTを活用した指導・助言、教職員研修の充実、巡回訪問サポートの実施、ICT活用に係る校内研究の推進を行ってまいりたいと思っております。

このようなことから、子ども達は、先程、教育長から話もありましたが、主体的な学び、対話的な学び、そのことによる深い学びの実現が出来るものと考えております。以上が学校におけるICT機器等の整備についてでございます。

2点目となります、プログラミング教育についてでございます。2020年から小学校プログラミング教育の全面実施に向けて、本市におきましては、先行実践校を野津原小学校と神崎小中学校の2校において、教材等を整備して進めてきております。

取組状況といたしましては、10月にプログラミング教育の研修を各校で行い、同じく10月には、野津原小学校を例にあげておりますが、6年生の総合的な学習の時間、理科の検証授業、そして来年2月には5年生の算数の検証授業を考えております。6年生については総合的な学習の時間の中で、自動販売機や信号機の動きをフローチャート化し、実機を使って

	<p>その働きについて理解をしてもらいます。それから6年生の理科の電気の授業につきましては、光センサーを用いて効果的に電気を利用するプログラムを考え、条件に応じてプログラム等がどのように動作しているかを理解する授業をしております。その当時の授業の様子をまとめたものを準備しておりますので、こちらをご覧ください。</p> <p style="text-align: center;">プログラミング授業の動画上映</p> <p>以上が10月の野津原小学校における、総合的な学習の時間と理科の時間の授業の様子でございますけれども、検証授業の考察にありますように、子ども達は他の教科でもフローチャート化することを学習しており、自分たちの考えを分解・整理するというプログラムの思考が養われてきていると思います。それから実機を動作させながら、予想の動作と違っているところについて、班で相談しながら修正を行い、再度挑戦することで、思考を整理しながら再構築する部分が身に付いてきていると考えられます。</p> <p>今後は1年目の実績を生かしながら、プログラミング的思考を育む授業を研究し、市内全小中学校に取組の様子を公開し、情報提供を行っていきつもりです。それから今回、両校で行った実践については、教育委員会で考察、分析しながら市内小中学校向けのプログラミング教育のスタートアップ授業と年間指導計画の作成例を提案する予定でございます。さらに、センターとしましては、研修、研究用として、希望する学校へ教材等の貸出を行ってまいりたいと思います。</p> <p>また、先日、小学校の校長会へ出向きまして、校長先生方に先程の信号機の実機を扱っていただきました。信号のプログラミングという動きをあまり考えたことがない中で、実際にプログラム化していくことで、論理的な思考というところに繋がっていくことといったが実感できたと思います。以上がプログラミング教育についてでございます。</p> <p>市長</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、説明いただきました内容等について、ご意見・ご質問等あればお願いいたします。</p> <p>市長</p> <p>よろしいでしょうか。私から一つだけ質問ですが、プログラミング教育というのは全面実施になるのが32年度ですかね。その時に何を指すということがあるんですか。今は考え方をフローチャート化して論理的に勉強をしましょうということで、大事なことだと思いますが、他方でプログ</p>
--	--

事務局	<p>ラムという、何となく、昔で言ったら、言語で表現するという事をやるのかなという気がしたりするんですけど、小学校の時は何を学ばせて、中学校の時には何を学ばせてというのが何かあるんですか。</p> <p>子ども達は日頃感じていることが、どのような流れでプログラミングが行われているのかということ、実際に物を使って、フローチャート化することで理解していくものと思います。自分たちが考えている論理的思考というものと、プログラミングがいわば繋がっているんだなというところを、実際に小学生が体験するというのがプログラミング教育でございます。中学校は技術家庭科の中で、このプログラミング的という、今、市長が言われるような内容的なもの、技術的なものを教えていくこととなります。小学校については、その思考について、実機を使って改めて自分たちの考え方と、機械が動く思考というのがほぼ似通っているんだなという所を実体験するというものになっております。</p>
市長	<p>分かりました。ありがとうございました。</p> <p>プログラムでドローンを飛ばしたりとか、ロボットを動かしたりとか、そういうところまでは小学校でやるんですか。そこまではやらないですか。中学校ぐらいで、そういうことをやるんでしょうか。</p>
事務局	<p>中学校でもそこまで、プログラムを打つというところまでは行いません。言語的なもの、構造的なものについては中学校の技術の中では学習しています。</p>
古城（和）委員	<p>信号機の信号が点滅するといったような事案についてですが、コマンドみたいなものは全て日本語化されていて、点滅させるといったようなものも、その日本語で出来上がったコマンドを実行するということですか。</p>
事務局	<p>コマンドには各種項目があり、点滅させるというものを自分で入力するなど、各種コマンドを組み合わせていきます。</p> <p>コマンド自体は形が出来上がっておりますので、それをどう組み合わせ、いかに分かりやすくするところを子ども達が考えていく形です。ゼロからの状態ではないので、ほぼ形が出来上がったものを組み立てていくこととなります。</p>
古城（和）委員	<p>ICTを展開するには情報セキュリティというのが、問題にならないかなと思っています。大学でもウィルスが侵入して困るといった状況もあ</p>

事務局	<p>ります。そういった態勢は万全なのかというところをお伺いしたいです。</p> <p>現在、使っている先生方の校務用端末については、もしエラーがあった場合には必ず教員はネットワーク接続を止めるという形で、物理的に線を外すという事を徹底しております。教育センターにも常備灯があり、エラーや通信機器に不具合が起こった場合には、点滅ランプが赤から青になり、その状況を見て業者と話をしながら、今どういう状況か確認しています。また、学校から連絡があった場合には、即、業者が入り、状況を確認して、不具合等が現地の学校だけなのか、それとも全市的な状況なのかを確認しております。</p>
市長	<p>その他、ご質問ありますでしょうか。</p>
大久保委員	<p>平成 32 年度から全小学校で実施されることになっているんですが、学年は 5, 6 年生ですか。</p>
事務局	<p>はい。5, 6 年生です。</p>
大久保委員	<p>年間何時間する予定ですか。</p>
事務局	<p>年間 6 コマで考えております。</p>
市長	<p>成績をつけたりするんですか。</p>
事務局	<p>プログラミング教育について、成績等はございません。</p>
上杉委員	<p>先程の動画で指導されているのは、クラス担任ですか。</p>
事務局	<p>クラス担任になります。</p>
上杉委員	<p>サポートに入られる方などはいますか。岐阜市では、シニアの方とか地域の方にサポートをしていただいたり、専門の知識がある方を呼んだりして手助けしていただいたりしていました。</p>
事務局	<p>実際には、サポート支援員というのはいません。ICT 支援員として委託業者の方は居ますが、今回の授業については教育センターの担当指導主事が支援に行っている状況でございます。支援策については今後検討して</p>

<p>市長</p>	<p>いきたいと思います。</p> <p>こういったことはICT企業の需要開拓につながるのかもしれませんがね。昔、私がシリコンバレーにいた時にネットデイというものがあった、決められたその日にシリコンバレーの様々な企業が、一斉に学校に出掛けて行って、回線をパソコンに繋いでいました。その頃、1995、6年頃、ちょうどインターネットが繋がりはじめた時期で、繋がらないと使えないということで、一斉に出掛けて行って行っていました。大分も多くはIT企業さんもいるので、支援員に来てもらうとか、そういうことを考えていくのもいいかもしれないですね。需要開拓のためという訳ではないですが、情報化社会を企業の皆様にもご協力いただきながら作っていくというものにもつながりますよね。</p>
<p>古城（一）委員</p>	<p>若いベンチャー企業さんもいらっしゃいますからね。</p>
<p>古城（和）委員</p>	<p>地域の中で、ICTに勤めていたシニアの方がリタイア後に、支援をしていくといったことも考えられますよね。</p>
<p>市長</p>	<p>課題かもしれないですね。 ありがとうございました。その他、よろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは次の議題に進みまして、英語教育ということで、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校教育課の佐藤でございます。</p> <p>続きまして、小学校「英語教育」についてご説明いたします。大変申し訳ありません。座ってご説明いたします。</p> <p>A3縦の資料3をご覧ください。</p> <p>本市では、2020年度からの小学校高学年への英語科の導入及び小学校中学年における外国語活動の全面実施に向けて、市内の全ての小学校を巡回訪問指導し、授業改善を推進することなどを通して、小中学校間の円滑な接続を図りながら、本市英語教育の充実に資することを目的とし、本年度、学校教育課内に「英語教育推進室」を設置いたしました。</p> <p>英語教育の推進に係る本市の取組内容は、資料中段にございますのでご覧ください。</p> <p>まず、英語教育推進室の取組として、「外部人材の活用促進」を行っております。本年度は26名のALTを全小中学校に計画的に派遣し、ネイ</p>

	<p>ティブ・スピーカーとして授業をサポートしております。現在、小学校でのALTを活用した年間授業時間は、3, 4年生は年間15時間のうち10時間、5, 6年生は年間50時間のうち25時間となっており、2回に1回程度はALTが参加できる体制を整備しております。</p> <p>また、「指導用教材の開発等」にありますように、学習展開例を示した「スタンダード・パターン」や指導案例の作成と活用、全小学校への年間9回の学校巡回訪問などを行っております。学校巡回訪問の際には、推進室の指導主事等が実際の授業を観察後、授業者との協議を行う中で、具体的な指導場面をもとに指導しており、11月末時点で、各小学校にそれぞれ7回の訪問が終了する予定であります。</p> <p>これまでの訪問や、研究推進校での授業を通して、子どもたちの生き生きと活動する姿が見られたり、授業での振り返りで「街の中で外国の人に出会ったら、道順を教えたい」等の感想が出されたりするなど意欲的な態度も広がってきております。</p> <p>教育委員の皆様の中にも、研究発表会等において外国語活動の授業をご覧になっていただいた委員さんがいらっしゃると思いますので、よろしければ、このあとの協議で感想等をお聞かせいただければと考えております。</p> <p>さらに、大分市教育センターにおいて、英語教育研修や授業実践動画の配信を行っており、教員の授業力の向上を図っているところでございます。</p> <p>しかしながら、授業を行う教員には、先程もありましたが、ネイティブ・スピーカーのような発音ができないなど、その専門性が充分でないのではないかと、不安を感じながら指導をしている様子も見られますことから、資料の下段にございますように、デジタル教材等のICTを効果的に活用できるよう、来年9月から、すべての普通教室にプロジェクター、スライド式マグネットスクリーンを配備するとともに、3年生以上には、デジタル教材をインストールしたパソコンを配備するなど、環境教育に努めてまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。それでは説明とあわせて、要請もございましたが、委員の皆様方がご覧になっての感想等ありましたらお願いします。</p>
生野委員	<p>先日、植田東中学校と敷戸、駕野、寒田小学校の授業を見に行きました。その中に英語教育がありました。小学生の英語教育をやっております、ゲームの様な感じで、ALTの先生と担任の先生と生徒たちが、クイズを出し合ったりして、その中で簡単な英語に触れていくということで、非常</p>

	<p>に子ども達が楽しそうにやっていましたし、ALTの先生の発音も身近に聞いているところが非常にいいと思いました。ただ、子ども達が30人ぐらい居て、ALTの先生が一人ということで、例えば1対1とか、2対1ぐらいのマンツーマンみたいな感じで外国人の先生と触れ合うという機会が少なかったように感じました。私もそうだったんですが、子どもの頃、外国人の方に会う事自体が貴重な体験で、私は18歳まで大分にいたんですが、ほとんどありませんでした。そういう時間が1分でも2分でも作れるのであれば、子ども達のモチベーションであったり、新たな意欲に繋がるのではないかと感じました。やはり、1対30で先生が話をされていたので、もう少し何か余裕があるといいのではないかと感じました。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。ALTが今26人ということですが、もっと増やせば良いのかもしれないですね。出来るだけ、そのような場が多いことが大変重要だと思います。</p>
<p>古城（和）委員</p>	<p>研究推進校ということで記載がありますが、判田小学校が基礎学力向上校として、英語教育を非常に熱心にやられていました。1年生から、英語を話すのが楽しくてしょうがないといったような形で授業が進められておりました。私もじゃんけんする役として加わったんですが、本当に活発で、こんな形で1年生からやれていたなら、本当に能力が向上するなという印象を強く持ちました。チームとして取り組んでいて、一人の先生だけではなく、同じ学年の先生も協力し合いながらやっていたので、こういった協力し合うといったチームとしてお互いの出来るところを出していくという形が良いなと思いました。</p> <p>高学年については、ALTと担任の先生の二人でやっておられましたが、最初に見た時は、この人がALTだなと思ったんですが、実は逆でして、本当にそういった形で先生方が率先して取り組んでおり、担任の先生を主役として、授業を先導してやっていくといった形でした。</p> <p>しかし、研修が非常に大変だろうなと思いました。資料右側に教職員研修とありますが、これを今の働き方改革の中、足りない時間の中で実施していくというのは、教育委員会の腕の見せ所といったような気がします。以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。他にございませんか。 教育長から何かありますか。</p>
<p>教育長</p>	<p>導入当初は、小学校の授業では非常に不安な教科でありました。いよいよ</p>

市長	<p>よこれが教科化されていくというところですが、その抵抗感は当初よりは随分軽減されてきました。それは、教育委員会が学校の中に積極的に入っていき、こういう展開をすればという指導例を示していったことが要因ではないかと思っております。しかし、小学校教員に聞いてみると、一番の不安はやっぱり発音なんです。指導はある程度、小学生に出来るんですが、発音はやっぱり不安を持っているという教員が多いですから、先程から出ておりますように、ALTをこの中にもっと増員していく、許されるならば訪問回数を増やしていくということが必要だろうという議論になっております。それが毎時間無理なので、この資料の下段にあります、デジタル教材を持ち込むことによって、発音はある程度、耳を慣れさせるという事が出来るのではないかと思います。</p> <p>それと、話はちょっと変わるかもしれませんが、私が今、県と話しているのは、小中間の人事交流をもっとして欲しいということです。例えば中学校英語教員で小学校免許を持っている教員が一定期間小学校に行き、小学校英語の指導の中心にあたるということです。そうすると、どういう指導をしていけばいいのかというのが、周りの教員にも刺激になります。そして、小学校でこのような英語教育をしていけば、中学校に戻った際には、中学校英語はどう変わらなければいけないのかなど考えることができます。両校種を体験させるということが非常に有効的に働くものだろうと思いましたので早速、この30年3月の異動の中にも、実はそれを少し入れました。今後、小中一貫教育もやっていきますので、英語に限らず他教科も含め、小中学校の人事交流ということも大事なことはないかなと思っております。</p> <p>ありがとうございます。やはりまずは先程1番目にありましたけど、ICTの活用の所が、問題解決にいろいろ役立ちそうですね。ALTの増員や、中学校の英語教員の活用など、小中学校間の連携も必要になりますね。</p> <p>もう一つ考えないといけないのが、外国人人材の活用が議論されていますけど、これが進みますと家族で滞在になります。大分市では今まであまりいなかったと思いますが、外国人が小学校に来ますということが増えると思います。今までは荷揚町小学校が、インターナショナルスクール的な機能をもっていたりしていたかと思いますが、これからますますそういうニーズが高まってくると思うので、今後、外国人をどうやって受け入れるかということが課題になると思います。受け入れた場合は英語を話せる人がかなり多いと思いますし、中国や韓国、東南アジアの人でも、熟練の人で入ってくる人はかなり英語をしゃべる人が多いと思います。そういう人</p>
----	--

<p>市長</p> <p>3. 閉会</p> <p>事務局</p>	<p>が入ってくると、先ほどのような場が増え、英語を喋る子ども、英語に接する子どもたちが増えてくると思いますので、外国人人材の受入、活用が英語教育に役立つ可能性もあります。全国的にもかなり問題になっていますが、日系ブラジル人の話など、日本語の能力が充分ではなくて、学校の教育についていけないというお子さん達がいるということもあります。今、大分市はあまり問題になっていませんが、今後、国会などによる議論によっては、外国人の受入の可能性も生じてくると思います。そうするとインターナショナルスクール的な役割を、どこが担うか分かりませんが、今までの伝統で言うと、碩田学園の中かもしれませんね。人材が多様化していく中で、教育現場でどうしていくのが重要になりますし、そういうニーズが必ず出てくるのかなと思います。他方で、学校教育以外でのリトルオースチンやサマーインジャパンとかを上手く活用しながら、学校教育の外側の話になりますけど、そういう所も含めて、出来るだけ生の英語を話す人たちに触れるなどして、外国人が増えてくるとか、外国人が子どもを伴って来るようになりますなどといった世の中の動きといったものにどう対応していくかということをいろいろ準備して取り組んでいく必要があると思います。</p> <p>全体を通して何かございますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは、事務局に進行をお返しします。</p> <p>はい。ありがとうございます。以上をもちまして、平成30年度第3回の大分市総合教育会議を終了いたします。</p> <p>次回の開催日程や議題等につきましては、事務局で調整をさせていただきます。皆様、本日は本当にありがとうございました。</p>
--	---